

# 第 32 回建設業経理事務士検定試験

## 3 級試験問題

### 注 意 事 項

1. 解答は、解答用紙に指定された解答欄内に記入してください。解答欄外に記入されているものは採点しません。
2. 金額の記入にあたっては、以下のとおりとし、1ますごとに数字を記入してください。

↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
一	千	百	十	一	千	百	十	一
億	万	万	万	万	の	の	の	の
の	の	の	の	の	位	位	位	位
位	位	位	位	位				

3. 解答は、指定したワケ内に明瞭に記入してください。判読し難い文字が記入されている場合、その解答欄については採点しません。
4. 設問中の各取引について、消費税は一切考慮しないこととします。
5. 解答用紙には、氏名・受験番号シール貼付欄が2カ所あります。2カ所とも、氏名はカタカナで記入し、受験番号は受験票に付いている受験番号シールを貼ってください。なお、受験番号シールがないときは、自筆で受験番号を記入してください。  
(氏名・受験番号が正しく表示されていないと、採点できない場合があります。)

〔第1問〕 群馬工務店の次の各取引について仕訳を示しなさい。使用する勘定科目は下記の〈勘定科目群〉から選び、その記号（A～U）と勘定科目を書くこと。なお、解答は次に掲げた（例）に対する解答例にならって記入しなさい。

（20点）

（例） 現金¥100,000を当座預金に預け入れた。

- （1） A社の社債（額面¥1,000,000）を¥980,000で買い入れ、代金は小切手を振り出して支払った。
- （2） 材料¥1,340,000を購入し、本社倉庫に搬入した。代金のうち¥800,000は手持ちの約束手形を裏書譲渡し、残額は掛けとした。
- （3） 本社建物の補修を行い、その代金¥756,000のうち¥300,000は約束手形を振り出して支払い、残額は翌月払いとした。なお、補修代金のうち¥490,000は修繕のための支出であり、残額は改良のための支出である。
- （4） 営業部長が出張するため、旅費の概算払いとして現金¥50,000を手渡した。
- （5） 決算に際して、現金過不足勘定の貸方残高¥4,200を雑収入勘定に振り替えた。

〈勘定科目群〉

A 現金	B 当座預金	C 仮払金	D 仮受金	E 工事未払金
F 未払金	G 現金過不足	H 完成工事未収入金	J 未成工事受入金	K 受取手形
L 支払手形	M 有価証券	N 材料	P 材料費	Q 交際費
R 修繕維持費	S 完成工事高	T 建物	U 雑収入	

〔第2問〕 下記の工事原価計算表と未成工事支出金勘定に基づき、解答用紙の完成工事原価報告書を作成しなさい。なお、当期中にA工事、B工事、D工事は完成し、C工事は未完成である。

（12点）

工事原価計算表

（単位：円）

摘要	A 工事		B 工事		C 工事	D 工事	合計
	前期繰越	当期発生	前期繰越	当期発生	当期発生	当期発生	
材料費	×××	284,000	×××	486,000	98,000	460,000	1,537,000
労務費	96,000	213,000	72,000	391,000	76,000	×××	1,233,000
外注費	×××	188,000	56,000	×××	55,000	204,000	×××
経費	68,000	×××	35,000	198,000	×××	167,000	626,000
合計	×××	802,000	247,000	×××	×××	×××	×××

未成工事支出金

（単位：円）

前期繰越	625,000	完成工事原価	×××
材料費	×××	次期繰越	×××
労務費	×××		
外注費	664,000		
経費	×××		
	×××		×××

【第3問】 次の<資料1>及び<資料2>に基づき、解答用紙の合計残高試算表（平成×年10月31日現在）を完成しなさい。なお、材料は購入のつど材料勘定に記入し、現場搬入の際に材料費勘定に振り替えている。 (30点)

<資料1>

合 計 試 算 表  
平成×年10月20日現在

(単位：円)

借 方	勘 定 科 目	貸 方
974,000	現 金	736,000
4,260,000	当 座 預 金	2,360,000
2,310,000	受 取 手 形	890,000
6,740,000	完 成 工 事 未 収 入 金	4,680,000
843,000	材 料	485,000
3,100,000	機 械 装 置	
900,000	備 品	
660,000	支 払 手 形	4,980,000
1,800,000	工 事 未 払 金	2,997,000
290,000	借 入 金	1,780,000
1,580,000	未 成 工 事 受 入 金	3,520,000
	資 本 金	2,000,000
	完 成 工 事 高	7,970,000
4,120,000	材 料 費	
2,140,000	労 務 費	
981,000	外 注 費	
652,000	経 費	
487,000	給 料	
543,000	支 払 家 賃	
18,000	支 払 利 息	
32,398,000		32,398,000

<資料2> 平成×年10月21日から10月31日までの取引

- 21日 材料¥198,000を掛けて購入し、本社倉庫に搬入した。
- 22日 工事契約が成立し、前受金¥400,000を現金で受け取った。
- 23日 外注業者から作業完了の報告があり、外注代金¥264,000の請求を受けた。
- 24日 材料¥67,000を本社倉庫より現場に送った。
- 25日 現場作業員の賃金¥180,000を現金で支払った。  
〃 本社事務員の給料¥160,000を現金で支払った。
- 26日 取立依頼中の約束手形¥460,000が、当座預金に入金になった旨の通知を受けた。
- 27日 現金¥100,000を当座預金から引き出した。
- 28日 本社事務所の家賃¥45,000を支払うため、小切手を振り出した。
- 29日 現場の電気代¥24,000を現金で支払った。
- 30日 当社振出しの約束手形¥290,000の期日が到来し、当座預金から引き落とされた。  
〃 工事の未収代金の決済として¥320,000が当座預金に振り込まれた。
- 31日 借入金¥300,000とその利息¥12,000を支払うため、小切手を振り出した。  
〃 工事が完成し、引き渡した。工事代金¥900,000のうち前受金¥300,000を差し引いた残金を約束手形で受け取った。

〔第4問〕 次の文の  の中に入る適当な用語を下記の〈用語群〉の中から選び、その記号（ア～ス）を記入しなさい。

(10点)

- (1) 他人振出小切手、郵便為替証書、  a は、現金勘定で処理される。
- (2) 固定資産の減価償却総額は、当該資産の  b から  c を差し引いて計算される。
- (3) 企業の主たる経営活動から生ずる収益を  d といい、これに属する代表的な勘定科目は、建設業においては  e である。

〈用語群〉

ア 受取利息	イ 付随費用	ウ 利益	エ 営業収益	オ 完成工事高
カ 残存価額	キ 完成工事原価	ク 貸倒引当金	コ 時価	サ 取得原価
シ 残高	ス 株式配当金領収証			

〔第5問〕 次の〈決算整理事項等〉により、解答用紙に示されている青森工務店の当会計年度（平成X年1月1日～平成X年12月31日）に係る精算表を完成しなさい。なお、工事原価は未成工事支出金勘定を経由して処理する方法によっている。

(28点)

〈決算整理事項等〉

- (1) 受取手形と完成工事未収入金の合計額に対して2%の貸倒引当金を設定する。（差額補充法）
- (2) 有価証券の時価は¥156,400である。評価損を計上する。
- (3) 機械装置（工事現場用）について¥32,000、備品（一般管理用）について¥6,000の減価償却費を計上する。
- (4) 貸付金に対する利息の前受分は¥1,500である。
- (5) 未成工事支出金の次期繰越額は¥194,000である。